

Q&A

Q 入れたものが、なかなか分解しないのですが…。

A 分解しない場合は細かくし、再度投入してください。卵の殻、バナナ・栗・大量のぶどうの皮、とうもろこしの芯、大根・にんじん・干し柿等のへた、サツマイモ、レンコン、ジャガイモ等の根菜類、玉ねぎの皮、かぼちゃ・梅干の種等は分解しにくい物です。分解されないものは、取り出してもえるごみとして出すことも検討してみてください。

Q 温度が上がらないのですが…。

A 米ぬかや米のとぎ汁等を入れると温度が上がりやすくなります。野菜のみ投入していると、カロリーが足りず、温度が上がリません。その他、乾燥している場合も、微生物が働かず、温度は上がりませんので、70℃くらいのお湯を直接かけたり、ダンボール箱のまわりにいらなくなったセーターで囲うことも効果的です。適度な水気は、土を握って、形が少し残るくらいです。水分不足のときは、米のとぎ汁や廃油などを加えます。また、冬場は温度が上がりにくくなります。思い切って冬場はダンボールコンポスターを中止することも検討してみてください。春から秋はダンボールコンポスター、冬は生ごみの水切りをして、もえるごみで出すなど、がんばり過ぎない、気にしすぎないことが続ける秘訣です。

Q フタを開けると虫がたくさん出てきて嫌です。

A 生ごみが表面に出てきていませんか？フタを閉じる前に生ごみの上に腐葉土またはピートモスをしっかりかけると、虫の発生は抑えられるようです。虫が発生してしまった場合は、しばらく生ごみの投入を中止し、米ぬかだけを入れて混ぜてみましょう。市販の虫除け商品を使うのも効果的です。

Q 臭いが気になります。

A 米ぬかを使用すると、ぬか床のような臭いがします。茶殻やもみ殻くん炭を入れると解消されるようです。また、ピートモスともみ殻くん炭を使ったダンボールコンポスターは米ぬかと腐葉土を使った場合に比べ、臭いが発生しにくいようです。ぜひ、試してみてください。

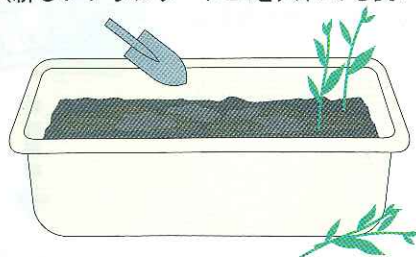
おまけ

生ごみ減量のひとつの方法として、プランターを使った生ごみ処理をご紹介します。

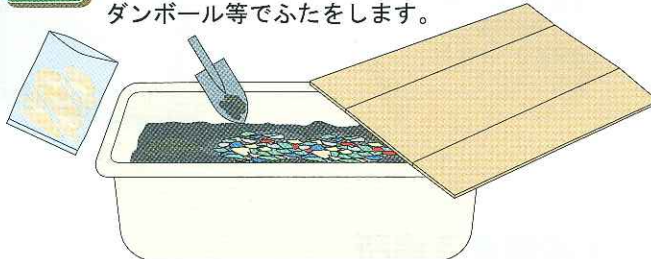
用意するもの

- ◆ 土の入ったプランター
- ◆ EMIほかし
- ◆ ダンボール(ふた)
- ◆ 生ごみ・スコップ

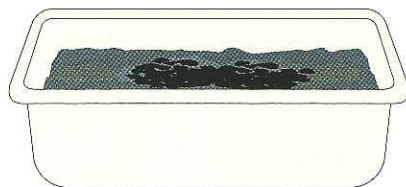
1 プランターに植わっていた植物を抜きます。スコップで土を混ぜます。(新しいプランターに土を入れても良いです。)



2 生ごみ(できるだけ細かくしたものとほかし(適量)を投入して、上から土をかぶせ、ダンボール等でふたをします。



3 約1週間で分解されて、土に帰ります。



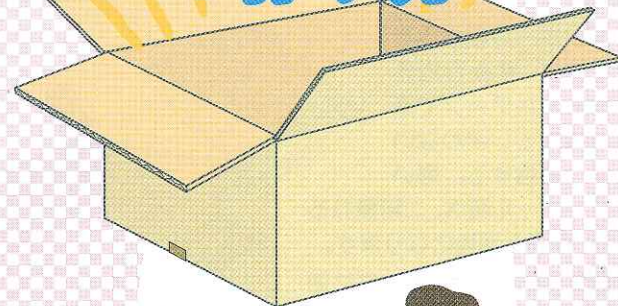
塩尻市役所 市民生活事業部 生活環境課

〒399-0786 長野県塩尻市大門七番町3-3
電話：0263-52-0679 FAX：0263-54-7661
E-mail：kankyo@city.shiojiri.lg.jp

~生ごみの堆肥化は、自然界の不思議なぞ解き作業~

ダンボール箱で発見と感動を!!

ダンボール コンポスター の作り方



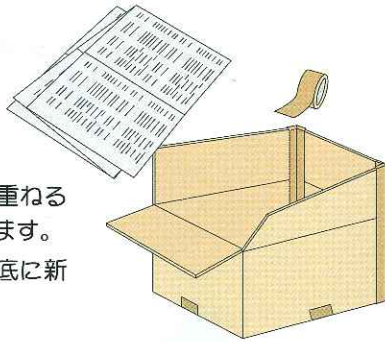
もえるごみのうち約4割を占める生ごみ。生ごみを減らすことがごみ減量の鍵になります。生ごみには、魚・肉など動物性のも、野菜や果物など自然由来のものが多く占めています。燃やして灰にしてしまうよりもう一度自然に帰したほうが良いとは思いませんか？ダンボールを使った生ごみの堆肥化方法をご紹介します。いのちの循環を体感してみませんか？

用意するもの

- ◆ダンボール箱(10kg入りかみ箱くらいの厚手のもの)
- ◆新聞紙(朝刊2日分くらいの量)
- ◆下敷き用のすのこ板か発砲スチロール(箱の底より大きいものがよい。)
- ◆腐葉土5kg ◆米ぬか3kg
- ◆園芸用シャベル(かき混ぜるためのもの)
- ◆温度計(土中の温度管理用に使います。)
- ◆はかり(生ごみの計量に使います。)

1 ダンボール容器づくり

- ダンボール箱のふたを立て、すみを内外ともガムテープで底が抜けてしまわないよう補強する。薄いダンボール箱は、二箱重ねると、保温と補強になります。
- 湿気予防のため、箱の底に新聞紙を厚めに敷く。



2 床づくり

- 腐葉土と米ぬかを良く混ぜて床(基材)をつくり箱に入れる。
- 代わりにピートモスともみ殻くん炭で作っても良い。
- 腐葉土と米ぬかを交互に入れると混ぜやすい。



ピートモス

水中や水際の植物などが、堆積し腐植化した泥炭を脱水、粉碎等したもの。土壌改良剤等に使用。アルカリ性。

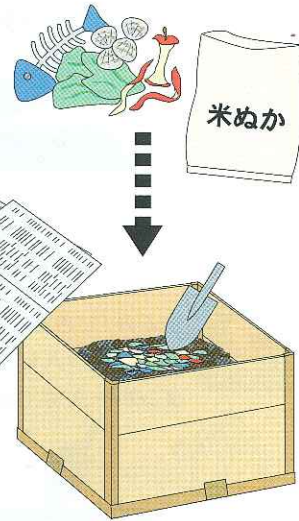
もみ殻くん炭

稲のもみ殻を蒸し焼きにして炭化させたもの。土壌改良剤に使用。酸性。

(一般に市販されています。)

3 生ごみを入れる

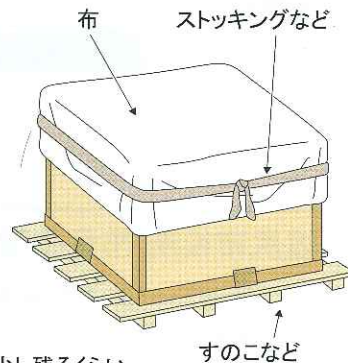
- シャベルで床に穴を掘り、水切りした生ごみに米ぬか2~3つかみ分を加え、箱の中で攪拌する。
- 1日1回は空気を入れながら床を混ぜる。
- 1度に入れる生ごみの量は500gくらい。(夏は1kgくらい入れても大丈夫!)
- 水分不足では熱が出ないので、米のとぎ汁、水などで適量の水分を加える。
- 卵の殻や貝殻、カニの殻等の固いものは細かく砕くなどして入れる。
- 余分な水分を吸わせるために床の上から新聞紙をのせるようにかぶせる。



発酵してくると床内の温度が50~60℃になり水分が蒸発します。温度計を入れて計ってみましょう!

4 設置する場所

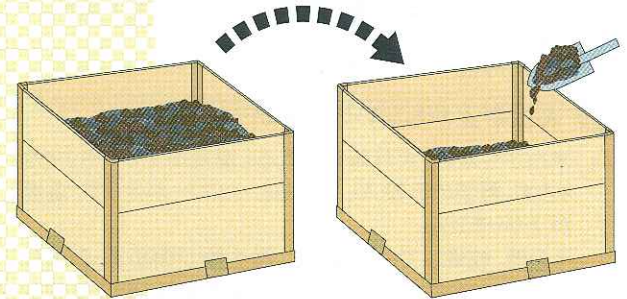
- 雨の当たらない、風通しと日当たりの良い軒下、又はベランダ。
- 虫が入らないように布をかけ、ストッキング等で止める。
- 箱の下はすのこ板、又は発砲スチロールの台を置き通気を良くする。
- 水分60%位、温度15℃程度、酸素不足にならないように管理。



※水分60%...土を握って形が少し残るくらい

5 箱がいっぱいになったら

- 新しいダンボール箱を用意し、床の半分を移して次の床にする。基材を足すと、なお良い。
- 残りの堆肥は時々水を入れながら熟成させる。熱が出なくなったら発酵終了、堆肥の完成!
- 適正に管理し、時間と手間をかけた床ほど菌が増え発酵が進みます。途中であきらめず続けてみましょう。



一度床を作れば 一生使える

堆肥の利用法

- 畑にまいて肥料にする
- 根に直接触れないように、苗床に・プランターに入れる 作物の根元まわりに置く

ダンボールコンポスターモニター感想

- ◆冬場は、お湯を入れても温度が上がらず、中止にしましたが、今までは畑に野菜くずを捨てていて虫や臭いがありました。コンポスターにしたら虫も臭いも出なかったのが衛生面でとても良いと思いました。
- ◆ダンボールは、厚手のものを二重にしてから良かった。虫が入らないように上に新聞紙をのせて蓋をし、それを伸び縮みするTシャツの首や裾を縫って、バスタオルの上から被せたのは良かった。
- ◆すべてが資源であり、再利用可能であるという思いの上で行動することが大切だと思います。愛情を持ち行動すれば苦にならず楽しい。終了後プランターに全てを移して野菜を育てています。

(H26~H27年度実践モニター個人の感想です。)